

●週刊ニュースを書かれていた常務理事の山村さんが緊急入院されたため、しばらくは事務局で編集することになりました。どうぞご了承ください。

### ●井手町へのアピール

先週、太田さんと播川さんが井手町の役場を訪問してイタセンパラの復活をアピールしてきました。その後、町の広報誌にイタセンパラのことを少しずつ写真と一緒に掲載してもらおうのが良いのではないかと思います、メールで連絡をとっていました。しかし町の広報誌は「従来より行政の行事、お知らせ等の情報を掲載することとしており、個人や法人、NPOなどの活動情報などは掲載しない取り扱いとなっております」と断られてしまいました。残念ですが、町の方針にそぐわないなら仕方ないことです。

### ●蛇籠制作をNHKが取材・撮影

10月17日（金）NHKの女性記者 絹川さんが竹蛇籠の取り組みの取材でビデオカメラを持って撮影に来られました。当日はあいにくの雨でしたが、8時15分スタッフ集合ということで、呼びかけに応じて9の方が参加してくださいました。蛇籠を編んでいる場所は玉水大橋の下なので、雨にはあたらずに、それぞれの方が作業をされ、それを記者は「竹割り」「ヒビ入れ」「籠編み」の工程すべて撮影されていました。一通り撮影し、「中聖牛の設置」の際にも取材に来ることを告げて撮影を終わりました。

翌日18日も、太田さん、森島さん、播川さんで蛇籠編みをしていただきました。

現在ハーフで48.5本の蛇籠が編めています。



### ●淀川河口見学会

毛馬閘門から淀川河口までの視察会が10月16日、主催は琵琶湖・淀川流域圏連携交流会で河合典彦先生と澤井先生の案内で開催されました。太田さん有田さん金田さんが参加しました。（参加者は13人でした）

初めに淀川河川事務所毛馬出張所前田所長の説明で毛馬排水機場・毛馬水門・毛馬閘門等を見学、ポンプ施設とし排水量 $55\text{ m}^3/\text{S}$ のポンプ6台で $330\text{ m}^3/\text{S}$ の能力があり日本一の設備との説明。又台風等の高潮が発生するときは大川の水を淀川に排水し、大阪市内を浸水から守っているとのことでした。マイクロバスで淀川大堰を渡り魚道を見学し、大堰から下流は塩水、上流は1メートルほどの段差があり真水で治水機能を実感しました。十三干潟のヨシ（アシ）オギ・セイタカヨシの違いを学び鶴殿に次ぐヨシ原風景を見学、洪水対策として阪神電車の鉄橋の架け替え工事を見たあと、大阪市漁協組合の方の水産業の取り組みと課題、シジミとかの話をお聞きしました。最後は淀川の河口にあたる矢倉海岸でしたが河合先生の詳しい資料と解説を聞き非常に良い勉強会をして大阪駅で解散しました。



## ●イタセンパラ復活を目指して 記者発表 10月19日（月）

10月19日（月）京田辺市役所記者室で「イタセンパラ復活を目指して」の記者発表を行いました。

光田先生にお越しいただき、里山の会からは太田さん、播川さん、金田さんの3人が出席しました。

光田先生から「イタセンパラは2007年までは木津川にいた。

国の天然記念物をこの木津川で復活させたい。この取り組み

は「トヨタ自動車(株)よりトヨタ環境活動助成プログラム」

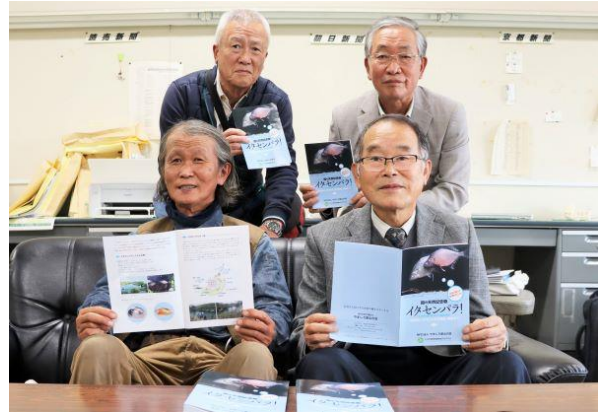
より助成を受けて実施するものです。イタセンパラは流れが

緩やかで、二枚貝が住んでいることが生きられる条件で、現

在は大阪の城北ワンドに生育している。中聖牛を2017年から2019年まで3年間設置して木津川の流れの

変化を京都大学の竹門先生などが研究されています」と説明していただきました。参加新聞社は読売新聞、

京都新聞、洛タイ新報の3社でした。



## ●10月植物調査 10月17日（金）

木津川植物調査を6名で行いました。今回は井手町27番から京田辺市17番までの11か所を調査しました。

オガルカヤ、メガルカヤなどイネ科の植物が繁茂していました。

左岸飯岡の土手からみた、田んぼの様子はトビイロウンカの被害が多数見られました。

